

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700244		
法人名	医療法人 緑光会 野宮病院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム ふれ愛の家		
所在地	岩見沢市5条東18丁目29番地		
自己評価作成日	平成29年2月6日	評価結果市町村受理日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700244-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 29 年 2 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多く、常に見守りし行動を一緒にしている ・三度の食事は、手作りでスタッフといつもおいしい食事を取っている ・隣接している病院の連携を取り、入居者様の健康に配慮している ・日々の生活の中では、一人一人に必要な支援で生活をする事を忘れず、笑顔に繋がるよう努めている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>バス停から徒歩5分程の母体病院の大きな敷地の中にある2ユニットのグループホームです。共用空間は広く清潔で、大きなホールを中心に居室が配置され、玄関には家族の面会にも利用できる広いロビーがあります。比較的長く勤務している職員が多く、高い意識を持ち、利用者目線で介護にあたっています。また、職員同士の協力体制が整っており、利用者家族とも馴染みの関係を作っています。前回の外部評価に関した運営推進会議議事録が分かり易く作成されています。また、介護計画に連動した日々の記録の作成に取り組み、改善につなげています。ケアマネジメントの面では、手順に従って介護計画の見直しを行い、モニタリング表やアセスメント要約表、担当者会議の記録など、見直しの経緯が整理されています。医療面では、隣接する母体病院の往診体制が整い、通院もすぐに行う事ができます。利用者の希望を取り入れてメニューを作り、彩りが豊富で美味しい食事が提供されています。利用者が下ごしらえや盛り付けなど様々な手伝いをしています。入浴支援の面では、主に午前中に各利用者が週3回程度、広い浴槽でゆったりと入浴を行っています。快適な環境で、利用者ができることを行いながら自分のペースで過ごすことができます。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の理念と、現状の地域密着型サービスの間での理念が変わってきている感はあるが、等事業所の人間統合、自然統合、地域統合と言う理念を決め共有に繋がるよう	3項目からなる事業所独自の運営理念があり、地域の一員として暮らすことをめざす「地域統合」を掲げています。運営理念を両ユニットの入口に掲げ、普段から理念の意義を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての繋がりを持つ機会が殆ど無い運営推進会議、夏行事、避難訓練等では、町内会長が参加されていた	母体病院附設の保育園児が月2回、事業所を訪れ、利用者と交流しています。町内会長や副会長が夏祭りや避難訓練に参加しています。利用者がよく買い物に出掛ける近くの薬局の職員とは顔なじみになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じ、認知症の理解を得られてはいないと思う		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開き、参加者の意見を頂きながら、サービスの向上に活かしていた居合わせた家族が、参加して行こうかなと気軽に参加される事もあった案内と議事録は全ての家族に郵送している	会議を2カ月毎に開催し、市や地域包括支援センター、町内会長、複数の家族などが参加し、防災や感染症対策、実地指導の結果などをテーマに話し合っています。分かり易い議事録を作成し、家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、通常業務での連絡等で、市町村の職員の方と連絡を取り、協力関係を築く事を心がけた	運営推進会議の場で市や地域包括支援センターから情報提供を受けています。施設長が各種の手続きで直接市役所に出向いて質問や相談をしており、密接な関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はなし スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロックについて話し合いをし注意しあっている	禁止の対象となる行為が掲載された「身体拘束ゼロの手引き」に沿って、毎月の会議で身体拘束がないか確認しています。玄関は日中施錠せず自由に入ることができます。出入りがあればセンサーで分かるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、外部の虐待防止勉強会に参加し、虐待が無いようにスタッフも注意をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見人制度に関し学ぶ機会がなく、支援に至っていない こぶしユニットは、3名が利用		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、施設長が担当し、説明を行っている 内容の変更があった場合は、書面で郵送		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるが、ほとんど活用されていない 運営推進会議では、ご家族から意見も出る事があり、それを踏まえて運営に活かせるようにしている	家族の来訪が非常に多く、職員と顔なじみとなり、多くの意見を得ています。家族の意見を「申し送りノート」で共有し、話し合いの内容は個々の「支援経過記録」に記載しています。家族に運営推進会議の議事録と一緒に、利用者の写真を送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる事がなかなか出来なかった	管理者ミーティングと担当者会議がそれぞれ月1回あり、職員が活発に意見交換しています。職員は管理者と随時相談することができます。行事企画や室内装飾など、職員が自然な形で役割を分担し、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当施設(母体の法人)での就業規則に準じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける事が難しく、実施に至っていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者が、同業者との交流する機会に参加はしたがネットワークづくりや相互訪問までには至っていない		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、本人が困っている事を聞き、どのような支援をしていけるかの聞き取り また、入居後に不安になる事があれば、それについて安心出来るように関係を作るようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、家族の要望、困っている事も聞き、入居してからの生活に活かすようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階では、家族の面会に来ていただいた時には、日々の様子を伝え、共に支援をしていけるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、その人が出来る事を役割として支援をしながら職員との関係を築くようにしている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常で、変わった事があった場合は、家族に報告し共に支えていけるように心がけている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居してから、馴染みの方との関係を支援出来るまでに至っていない 家族の協力を得て、外出をする際にお願いをする	利用者の友人の来訪は以前に比べ減っていますが、家族の他、親戚が来訪している利用者がいます。家族に協力を依頼し、馴染みの床屋や自宅、外食などに出掛けている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で、同じような事が出来る事を把握し、それについて関わり合いを持ちながら支援するよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してしまうと、経過についてフォローする事がほとんどない		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で話を聞き、どんな事を希望しているのかを把握し、会議の中で検討→変更をしたりしながら良い方向になるように努めている	3分の2ほどの利用者は言葉で思いや意向を表現でき、難しい利用者の場合も表情や家族からの情報を参考に意向を把握しています。フェイスシートや暮らしの情報シートを作成し、利用者の希望や生活歴などを把握しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、これまでの生活の状態を、本人や家族からの話を聞き、入居後の生活に馴染めるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、体調や気持ちの変化があるので、その見極めをし出来る事をしていただくようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、本人、家族の意見を聞き、アセスメントやモニタリングをしている また、担当者会議の際には、意見を出し合いながらどんな支援が出来るかを検討し反映するようにしている	介護計画を3ヵ月毎に更新しています。モニタリング表とアセスメント要約表を作成して利用者に必要な支援を確認し、担当者会議で計画を見直しています。日々の記録は介護目標を参照し、目標の番号を記入しながら利用者の様子や支援内容を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌で日々の様子を記録し、また職員間での送りノートでの情報の共有、また支援経過記録にて診察等の記録も含めて情報の共有を図り見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当者会議で、支援やサービスの変更が必要になった場合には見直しも含めて、入居者様の支援が出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かすような事が出来ていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院の医師の定期的な訪問、その他の医療機関に関しては、基本家族の支援のもと医療を受けられるようにしている	2週に1度、母体病院による内科、精神科の往診があります。他の科を受診する場合は家族に協力を依頼し、受診内容の報告も受けています。受診内容は個々のケース記録、支援経過記録に記載し共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の体調に変化があった場合は、隣接する病院の医師や看護師が対応して頂いて入るが、日々の健康管理までには至っていないが、今後は行うような調整をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	救急などで入院する場合、ご家族に連絡するとともに可能な限り付き添いを行っている。ご家族の引継ぎ後は入院に必要なものを用意している。入院後も様子の確認を行っている。退院前後に入院先と連携し情報交換を行い退院後の支援を行うようにしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される前に、家族と話し合いをし、どのような対応をするかを決めている	利用開始時に「看取りに関する指針」を説明し、同意書に署名捺印を得ています。事業所での看取りはまだなく、重度化した場合は医師と相談の上で母体病院等での医療を受ける方針とし、本人や家族もその方針を共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、隣接する病院の医師や看護師に連絡を取り対応していただいている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地震や火災に対しての避難訓練を実施しているが、地域との協力に関しては出来ていない	年2回の避難訓練を消防署や地域の協力のもと行い、昨年度は夜間想定、今年度は地震想定訓練も行っています。救急救命は病院対応を基本とし、職員の定期的な救急救命訓練は行っていません。水や食料等の備蓄品も病院で用意しています。	外出時など病院の支援が難しい場合も想定し、全職員が定期的に救急救命訓練を受講できるよう、取り組みを期待します。また、災害時に事業所として必要な水や食料等、備蓄品の整備を期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様が、その人に理解してもらえるような言葉での声かけや、プライバシーに配慮した声かけを意識して行っている	「さん」づけを基本に利用者や家族が希望する呼びかけも取り入れています。職員の対応で気になる点があれば、互いに注意しています。申し送り時の会話は本人に聞こえないよう配慮しながら行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは無理強いせず、出来る限り本人の思いを叶えるように努めている。本人への意志確認や、その日の表情や仕草から本人の意志をくみ取るように心掛けている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	眠たい時は、横になってもらったり、食事の時間も入居者様に合わせるようにしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様が好きな色や、似合う色などを考え、身だしなみやおしゃれが出来るように配慮している クリームを付けたりはするが、化粧をする方はほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会などでは、入居者様の好みの物を取り入れたりしている 食事の盛り付けをしてもらったり、後片付け等、役割を持っている方もいる お弁当や鍋等で家族や入居者様に喜んでもらっている	利用者の希望を取り入れてメニューを作り、彩りが豊富で美味しい食事が提供されています。利用者が下ごしらえや盛り付け、下膳、食器拭きなど様々な手伝いをしています。誕生日など、お寿司や鍋にすることもあります。テラスで食事をしたり、弁当の器を使うなど、食事に変化を加えて楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水やお茶だけでなく、コーヒーなど本人の好みのもので水分をとれるように支援している 身体の大きさに配慮して摂取		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行っている。十分にできない方には介助して対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の排せつパターンに合わせ、本人の訴え、表情、仕草等からトイレ誘導をするようにしている	半分ほどの利用者は自力でトイレに行くことができます。介護日誌で排泄パターンを把握し、誘導や介助が必要な利用者にはタイミングを見て、羞恥心に配慮した声掛けをしています。状態に応じて夜間のみ、オムツやパッドを利用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取や、水分を取るようにはするも、下剤を使用しての便秘の対応が多い		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は、決めてはいるもの変更して入る事もある 夜間の入浴は行っていない	広い浴室と浴槽があり、ゆったりと入浴することができます。主に午前中に各利用者が週3回程度入浴することができます。拒否がある場合は、時間や日にちをずらすなどの工夫をして支援しています。入浴時は歌を歌ったり会話を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のペースで休息としていただいている。介助が必要な方に関してはその日の体調や表情を見ながら、休息してもらうように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、手渡しをして見守りの元服用してもらうようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居差様の出来る役割をもってもらっている。食事の準備や、後片付け、ゴミ捨て等		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は行っていないが、家族の協力の下、外出が出来るように支援をしている 去年から、同じ法人の車を使用出来るようになったので今年は外出が出来るように支援をする予定	病院を含めた広い敷地があり、日常的に敷地内のテラスや畑、庭を散歩しています。病院の売店や近くのスーパー、薬局に出掛けることもあります。一方、季節行事や個々の希望に沿った外出支援は行っていません。	母体病院の車の使用が可能となり、外出支援を増やす方針としていることから、季節行事や個々の希望に合わせた外出支援が増えることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者様は、お金を使う場面がない為所持はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使えるように設置はしているが、使う方は少ない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール及びロビーにソファを設置している。 正月に、繭玉等の飾り付け、季節感のある壁の飾り付けをしている	各ユニットは大きなホールを中心に居室が配置されています。玄関には広いロビーがあり、家族が気兼ねなく来訪できます。共用空間は冷暖房が完備され、明るさも調整されています。壁には利用者で作った季節の装飾やカレンダー、書道作品などが飾られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が、思い思いの場所で過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に、家具等は持ち込みをしてもらうようにしている。 また、それまで使用していた物や思い出の品を持って居心地がよく過ごしてもらっているようにしている	居室入口に写真入りの表札が掲げられ、暖簾も設置しています。室内には備え付けのロッカー、ベッドの他に利用者の使い慣れた家具やテレビ、椅子、趣味の飾りなどを持ち込み、居心地良く過ごせる場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部の危険回避に注意をし、安全を保てるように心がけている		